

国立歴史民俗博物館総合展示 第1室(原始・古代)の新構築事業 2013年度活動報告

Renovation Project of the Permanent Exhibition Gallery One (Prehistoric and Early Japan)
of the National Museum of Japanese History : FY 2013 Activity Report
SHIBUTANI Ayako and OTSUKA Yoshiaki

渋谷綾子・大塚宜明

はじめに

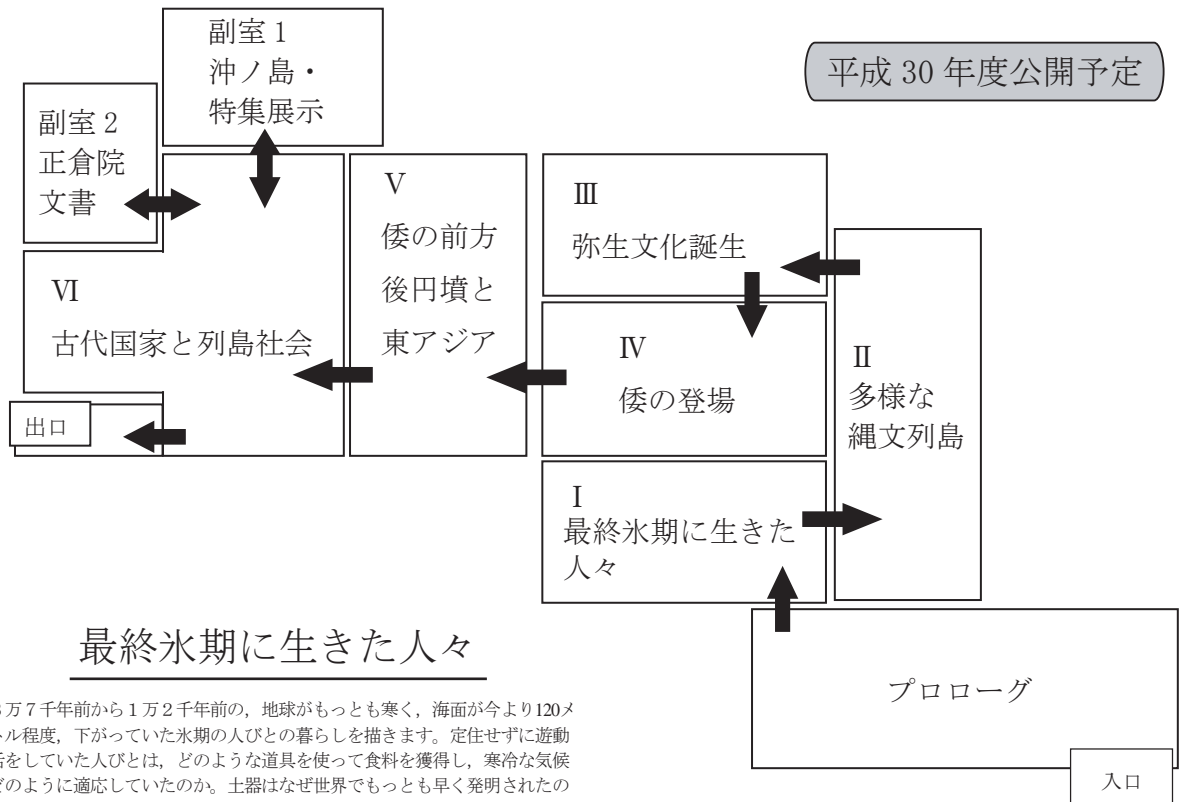
本稿は、国立歴史民俗博物館総合展示第1室新構築事業（以下、第1室リニューアルと略）における2013年度の活動に関する記録である。前稿〔渋谷, 2014〕に引き続き本稿においても、第1室リニューアルの準備状況や展示リニューアル委員会についての概要を示すことで、現在の展示意図や構想、展示構成について可能な限り精緻な記録を残すことを目的とする。

2013年度は、展示予定資料として、長期借用する資料を含めた実物資料や複製資料、大型模型、復元画、写真パネルや解説パネルなどを選定・製作するとともに、各テーマの構成や展示資料の配置といった展示構成の全体設計（館内での基本設計）が作成され、2014年3月に全体設計のプロポーザルが行われた。これを受けて、2014年度初めに実施設計図作成業者が選定され、実施設計の作成が開始される。本稿では2013年度に確定された各テーマの構成内容、いわゆるグランドデザインに関わる活動とともに、展示予定資料の調査や複製資料・大型模型の製作の概要を報告する。

なお前稿〔渋谷, 2014〕では、「大テーマⅠからⅣの旧石器時代から弥生時代までの展示が2016年度に一般公開する予定であり、2017年度には大テーマⅤ・Ⅵの古墳時代と古代を一般公開することとなる」と述べた。その後、2013年度に館内委員会で詳細な検討を行い、2度の展示リニューアル委員会や館内の他の教職員にはかった結果、2018（平成30）年度に全テーマを一括して開室することとなった。開室までのスケジュールも変更されたため、これについても併せて報告する。

1 第1室リニューアルの展示構成案と構造平面図案

第1室リニューアルの展示構成案は第Ⅰ期展示の課題をふまえており〔大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 2004；渋谷, 2014〕、2013年度も引き続き展示リニューアル委員会と館内委員会の双方で検討を行った。その結果、下記のとおり展示テーマ構成が確定された（図1）。構造平面図案は図2のとおりである。



最終氷期に生きた人々

3万7千年前から1万2千年前の、地球がもっとも寒く、海面が今より120メートル程度、下がっていた氷期の人びとの暮らしを描きます。定住せずに遊動生活をしてきた人びとは、どのような道具を使って食料を獲得し、寒冷な気候にどのように適応していたのか。土器はなぜ世界でもっとも早く発明されたのか。このコーナーでは等身大のジオラマを駆使して、さまざまな側面からビジュアルに展示します。

多様な縄文列島

氷期が終わってから地球が温暖化していく過程で、日本列島が大陸から切り離されて島嶼化し、東北北部で水田稲作が始まる紀元前4世紀までの人びとの暮らしを描きます。北海道から沖縄まで南北3千kmにわたって連なる日本列島では、環境の違いに見事に適応した暮らしが各地で営まれ、多様な社会や精神文化が形成されました。このコーナーでは模型やジオラマなどを利用して、日本列島各地に生きた人びとに光を当てます。

弥生文化誕生

前10世紀から前2世紀まで、水田稲作を生活の中心とした本州・四国・九州各地の多様な暮らしと、水田稲作を受け入れなかった北海道と奄美・沖縄の諸文化を描きます。また鉄や南海産大型貝などを求めた弥生人と朝鮮半島、北海道、奄美・沖縄の人びととの交流にも光を当てます。このコーナーでは水田稲作の開始年代が500年あまりもさかのぼったことによって、何が大きく変わったのか。まだ教科書に載っていない新しい弥生文化像を展示します。

倭の登場

倭人が中国王朝と直接の関係を持ち始めて、東アジア世界に登場した紀元3世紀ごろまでを対象とします。日本列島の各地で見つかった中国・朝鮮半島系の資料、朝鮮半島各地に残る弥生土器を中心とした倭系資料は、東アジア各地と相互に交流していたことを物語っています。こうした交流を軸に、日本列島の西半分地域ではシンボルを共有する地域的なまとまりが形成されていきます。このコーナー全体を、中国から西日本へといたる地図に見立てて、各地の様相について展示します。

倭の前方後円墳と東アジア

3世紀から6世紀には、東北中南部から南九州に至る広い範囲で前方後円墳を造るようになります。こうした世界の実態を、倭の視点と東アジアの視点から描き出します。倭の社会を支え、また変えたのは何であったのか。王の姿やくらしの風景、あるいは馬や鉄など新しい技術に注目します。そして、前方後円墳のない南の世界や北の世界との関係や、朝鮮半島の諸世界との交流を見つめます。

古代国家と列島社会

飛鳥時代、奈良時代、平安時代のはじめまでの約300年の「日本」国の姿を描きます。従来の都中心の展示を改め、地域からの視線も合わせた双方向の展示を行います。また奈良時代を、中国から導入した律令制の完成形と捉えるのではなく、試行錯誤の期間と捉え直すとともに、日本型の律令国家ともいえる古代国家の完成を平安時代の始まりに求めた展示を行います。

沖ノ島・特集展示

福岡県沖ノ島では4世紀～9世紀にかけて何回も神まつりが行われました。現在は立ち入りが制限されている沖ノ島のまつりの様相を展示するとともに、日本列島の北と南の展示、時期の推定や産地同定等の考古学的方法論などのミニ企画展を行い、研究成果の新しい情報が展示に随時反映できる可動的な展示を行います。

正倉院文書

正倉院文書のもつ史料として意味やおもしろさを展示します。定期的に展示替えをおこなう予定です。

図1 新構築後の第1展示室のテーマ構成

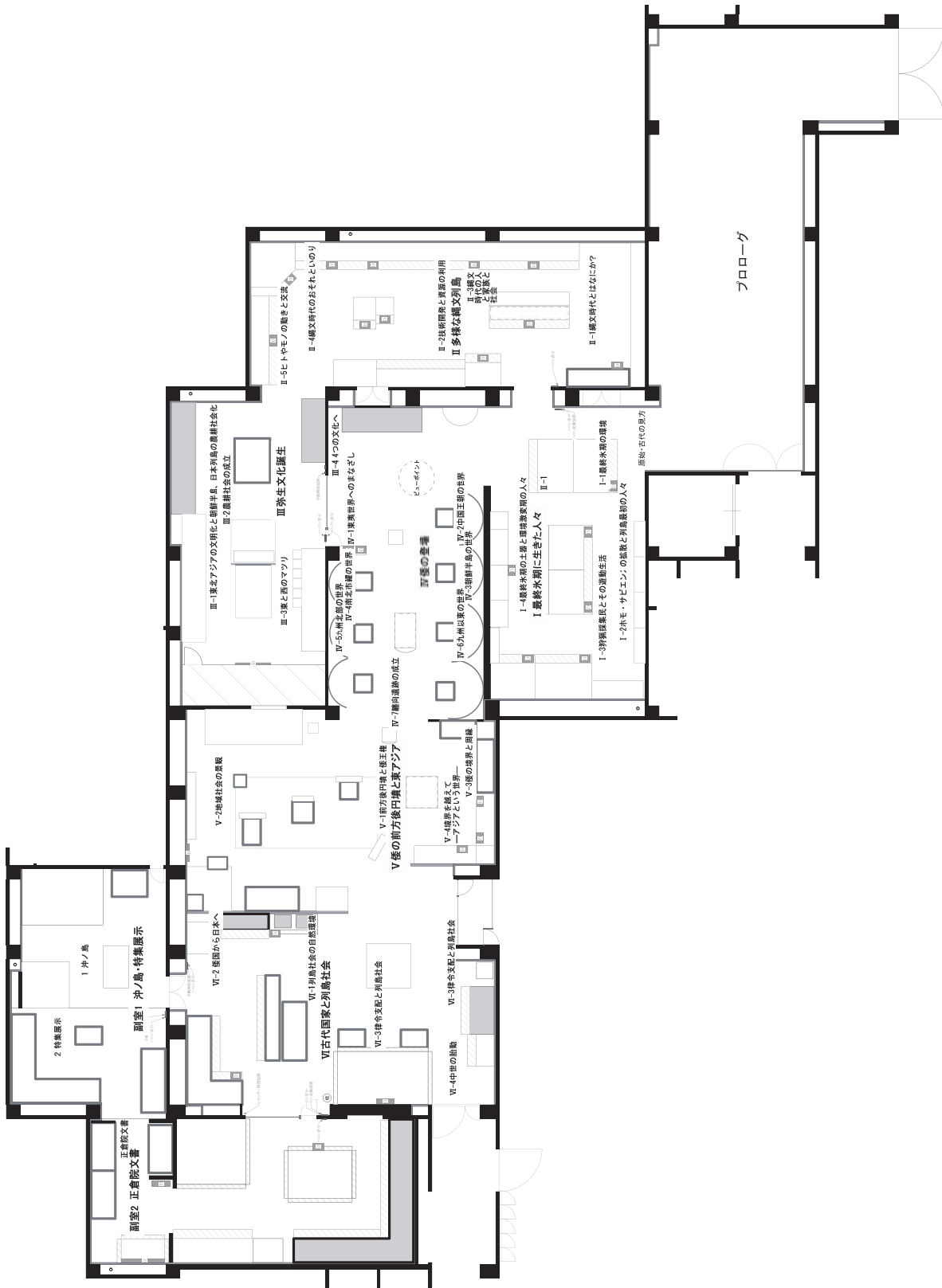


図2 総合展示室第1室リニューアル後の構造平面図案 (展示テーマ案・展示予定資料一覧をもとに秋山理奈子氏作図)

<リニューアル後の展示構成案>

- I 最終氷期に生きた人々
 - I-1 最終氷期の環境
 - I-2 ホモ・サピエンスの拡散と列島最初の人々
 - I-3 狩猟採集民とその遊動生活
 - I-4 最終氷期の土器と環境激変期の人々
- II 多様な縄文列島
 - II-1 縄文時代とはなにか？
 - II-2 技術開発と資源の利用
 - II-3 縄文時代の人と家族と社会
 - II-4 縄文時代のおそれといのり
 - II-5 ヒトやモノの動きと交流
- III 弥生文化誕生
 - III-1 東北アジアの文明化と朝鮮半島、日本列島の農耕社会化
 - III-2 農耕社会の成立
 - III-3 東と西のマツリ
 - III-4 4つの文化へ
- IV 倭の登場
 - IV-1 東夷世界へのまなざし
 - IV-2 中国王朝の世界
 - IV-3 朝鮮半島の世界
 - IV-4 南北市糶の世界
 - IV-5 九州北部の世界
 - IV-6 九州以東の世界
 - IV-7 纏向遺跡の成立
- V 倭の前方後円墳と東アジア
 - V-1 前方後円墳と倭王権
 - V-2 地域社会の景観
 - V-3 倭の境界と周縁
 - V-4 境界を越えて—アジアという世界—
- VI 古代国家と列島社会
 - VI-1 列島社会の自然環境
 - VI-2 倭国から日本へ
 - VI-3 律令支配と列島社会
 - VI-4 中世の胎動

副室1 沖ノ島・特集展示

副室2 正倉院文書

2 2013年度の活動概要

2013年度は館内での基本設計の作成が中心となり、展示テーマ案、展示予定資料、展示配置図案の検討が行われた。特に展示資料に関しては、実物資料の長期借用にかかわる各研究機関との調整が行われ、同時に複製資料や大型模型の製作が本格的に実施された。展示テーマ案、展示予定資料、展示配置図案などのグランドデザインは館内委員会で詳細な検討を行った後、2度の展示リニューアル委員会にはかり、館外委員の意見を得た。それをもとに基本設計が確定され、2014年3月7日に全体設計のプロポーザル「国立歴史民俗博物館総合展示第1室新構築展示設計業務に係る企画競争説明会」が行われた。

基本設計を作成する諸活動と同時に、2013年度は展示工事費や展示設計費などの各種予算の検討も行われた。これらの検討の結果、第1室の開室予定時期を2018（平成30）年度に延長することが決定した。開室予定時期の延長を受けて、展示室を分割して開くのではなく全テーマを一括して開室することも検討され、館内委員会および展示リニューアル委員会ではかった後、館内全体の同意を得て確定された。

【第1室リニューアル委員会】

全体会議（国立歴史民俗博物館で開催）

・2013年8月3日・4日

議事：1室全体の演示法、展示テーマ案、展示予定資料一覧、展示資料配置図の検討

・2013年12月14日・15日

議事：展示テーマ案、展示予定資料一覧、展示資料配置図の検討

館内委員会

・2013年4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月30日、10月28日、11月11日、12月6日・27日、2014年1月24日、2月24日、3月24日

議事：各テーマの基本設計、予算の進捗状況、今後の実施計画についての検討

【総合展示リニューアル運営会議】

第1回 2013年6月14日

・第1室新構築事業の工程の説明と今後の予定について報告

第2回 2013年9月13日

・第1回リニューアル委員会の報告、第1室リニューアルの基本設計案の作成状況の報告

第3回 2014年1月20日

・第2回リニューアル委員会の報告、第1室リニューアルの基本設計案の検討

【拡大総合展示リニューアル運営会議】

2013年9月27日

・第1室リニューアルの基本設計案に対する館内での検討

【平成25年度第2回総合展示検討会議】

2013年10月21日

・第1室の現状説明、第1室リニューアルの基本設計案について検討

【総合展示第1室新構築展示設計業務に係る企画競争説明会】

2014年3月7日

・実施設計図作成業者を選定するための基本設計の説明

3 資料製作活動の概要

1) 複製資料と大型模型の製作目的

2013年度初頭から第1室リニューアルで扱う複製資料の製作、大型模型の製作や改修が開始された(図3)。製作・改修する資料・模型の種類や点数、特に複製資料については復元複製を行うか現状複製を行うかという製作方針は、テーマによってそれぞれ異なる。今回の第1室リニューアルでは可能な限り実物資料の借用を試みて、各研究機関との調整を行ってきた。ただし、重要文化財や指定文化財などに該当する資料、所蔵機関で常設展示されている、あるいは展示予定であるといった理由から長期間の借用が困難な資料については、複製資料の製作を随時進めてきた。

ここでは2013年度に製作された資料のうち、大テーマⅢの展示予定資料である福岡市雑餉隈遺跡の弥生時代早期の木棺墓(SR003, SR015)から出土した副葬品の複製資料を例として取り上げ、これらがどのような調査を経たうえで製作されたのかを報告する。

2) 福岡市雑餉隈遺跡の複製資料

製作資料の概要

雑餉隈遺跡の資料で複製資料を製作したものは、SR003木棺墓から出土した夜白式壺1点、有柄式磨製石剣1点、有茎式磨製石鏃3点、ならびにSR015木棺墓から出土した夜白式壺1点、有柄式磨製石剣1点、有茎式磨製石鏃5点である[福岡市教育委員会, 2005]。これらの資料のうち、石剣と石鏃の材質は粘板岩をはじめとする堆積岩である。特に、SR015出土の磨製石剣は層灰岩と称される岩石を素材とし、黄褐色と緑灰色が繰り返す互層状の縞模様を呈している(図4:1)。本資料は保存処理が施されているものの、岩石の性質上風化がすでに著しく進行していた。資料が製作・使用されていた弥生時代当時の状態を可能な限り再現する目的から、現在採取することが可能な岩石を色見本として用いることによって、複製資料の彩色を行うこととなった。そこで、筆者の1人である大塚が色見本としての岩石を採取する石材調査を北九州市域で実施した。

石材調査

層灰岩は岩石学的には「火山砕屑物と堆積性砕屑物との混合物が固結した岩石で、特に火山灰と細粒砕屑物の混合した場合を指す」という[鈴木, 2005]。層理が発達しており、風化していない新鮮な面は灰黄褐色と黒灰色の互層状を呈する。石材の産地は、北九州市域の脇野亜層群(図5)や対馬の対州層群下部層ホルンフェルス帯、韓半島東南部の洛東層群が候補地として挙げられる[森, 2013]。

色見本を採取するための石材調査は、北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室の梅崎恵司氏のご協力のもと、北九州市域の脇野亜層群を対象として実施し、石材の採取は紫川の中流域と黒川の上流域の2箇所で行った(図5)。紫川の中流域は石材産出地から離れており、採取された礫の形状は水磨が進んだ亜円礫で、人頭大から拳大の大きさである。石材産出地にあたる黒川の上流部

では、亜角礫が採取でき、1mを超す非常に大形のものも見つかった。岩石の色調はおおよそ灰黄褐色と黒灰色の互層状をなして共通している。しかし、複製資料を製作した磨製石剣に見られるような均質の縞模様は自然礫の中では非常に少なかった。これは、岩石の生成時において安定した堆積状況であったことを示すものである。石器製作の折にその色調まで考慮していたことをうかがわせており、製作者による素材の選択性の高さが判明した。

石材標本の作製と複製資料の製作

複製資料製作時の裏付け資料となる岩石標本(図4:2)は、採取した岩石を金属製ハンマーで適当な大きさに分割した後、岩石カッターで成形し、最後に研磨を施して作製した。複製資料の製作工程については、①実物資料に箔をはった後、シリコンと石膏で型を作成、②型に樹脂を流し原型を製作、③原型の細部に微調整を加え、最後に石材標本にもとづき彩色を行う(図4:4)。

雑餉隈遺跡 SR015 出土の磨製石剣の場合は、資料調査による資料自体の特徴の確認、石材調査・石材標本の作製による裏付け情報の収集、複製資料の製作という工程をとった(図4:4)。結果として、雑餉隈遺跡の複製資料の場合は実物資料との色調の違いが顕著に見られた(図4:1, 3)。そこで大テーマⅢの展示においては、展示資料の実証性、ならびに資料製作に関わる研究活動や博物館展示の製作過程を示すため、成果物としての複製資料とともに石材標本を展示することとなった。

先述したように、層灰岩の石材採取地については対馬の対州層群下部層ホルンフェルス帯や韓半島東南部の洛東層群も候補地とされており[森, 2013], 学界でも見解は一致していない。そのため、第1室リニューアルにおいて脇野亜層群採取礫を参考にした複製資料は、博物館展示から研究への

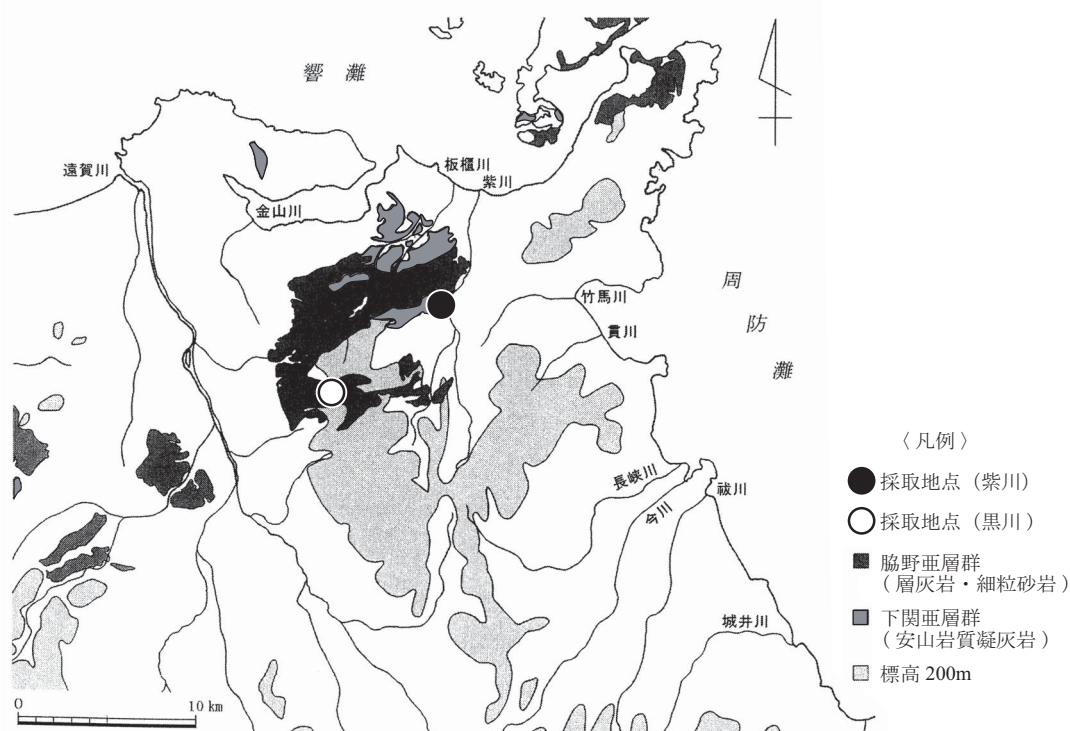


図5 東北部九州における石材分布と石材調査地(森2013をもとに作成)

問題提起的な側面をもっている。当該資料を通じて新たな調査研究を促進し、さらにそれらの成果を展示へ反映させることで、博物館型研究統合の1つ「発信と受信の展示」の実践として位置付けられるだろう。

4 第1室リニューアル展示プロジェクト委員

第1室展示プロジェクト委員は下記のとおりである。所属・役職については2013年4月時点のものである。

<館内>

藤尾慎一郎	国立歴史民俗博物館	研究部	教授 (代表)
林部 均	国立歴史民俗博物館	研究部	教授 (副代表)
上野 祥史	国立歴史民俗博物館	研究部	准教授
小倉 慈司	国立歴史民俗博物館	研究部	准教授
工藤雄一郎	国立歴史民俗博物館	研究部	准教授
鈴木 卓治	国立歴史民俗博物館	研究部	准教授
高田 貫太	国立歴史民俗博物館	研究部	准教授
西谷 大	国立歴史民俗博物館	研究部	教授
仁藤 敦史	国立歴史民俗博物館	研究部	教授
松木 武彦	岡山大学大学院社会文化科学研究科	教授 (2014年4月～ 国立歴史民俗博物館研究部教授)	
三上 喜孝	山形大学人文学部	准教授 (2014年4月～ 国立歴史民俗博物館研究部准教授)	
村木 二郎	国立歴史民俗博物館	研究部	准教授
山田 康弘	国立歴史民俗博物館	研究部	准教授
渋谷 綾子	国立歴史民俗博物館	研究部	特任助教
大塚 宜明	国立歴史民俗博物館	研究部	機関研究員 (2013年6月～ 2014年3月)

<館外>

小畑 弘己	熊本大学文学部	教授
亀田 修一	岡山理科大学総合情報学部	教授
川尻 秋生	早稲田大学文学学術院	教授
設楽 博己	東京大学文学部・大学院人文社会系研究科	教授
瀬口 眞司	公益財団法人滋賀県文化財保護協会	企画調査課 副主幹
谷口 康浩	國學院大學大学院文学研究科	教授
堤 隆	浅間縄文ミュージアム	主任学芸員
菱田 哲郎	京都府立大学文学部	教授
森 公章	東洋大学文学部	教授
吉田 広	愛媛大学ミュージアム	准教授
若狭 徹	高崎市教育委員会文化財保護課	係長
若林 邦彦	同志社大学歴史資料館	准教授

5 おわりに

2013年度は、具体的な展示予定資料、特に複製資料や大型模型、復元画の製作が本格的に実施され、各テーマの構成、展示資料やケースの配置といった基本設計が作成された。その基本設計にもとづいたプロポーザルを受けて、2014年度初めに実施設計図作成業者が確定する。

2014年度は展示予定資料の選定作業が続くとともに、実施設計図の作成や展示工事に向けた作業が中心となる。基本設計はいわば2次元的な展示プランにとどまっているが、実施設計図作成業者が加わることによって立体的でより具体的な展示プランへ統合されていくのが2014年度以降の活動である。本稿と同じく引き続き、第1室リニューアルの活動を随時報告していくつもりである。

謝辞

北九州市における石材調査では、梅崎恵司氏（北九州市芸術文化振興財団）から多くのご教示やご協力をいただいた。末筆ながら記して深く感謝申し上げます。

引用文献

- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館. 2004. 国立歴史民俗博物館総合展示リニューアル基本計画. 59 pp. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 佐倉市.
- 福岡市教育委員会, 編. 2005. 「雑餉隈遺跡5 第14・15次調査報告」, 149 pp. 福岡市教育委員会, 福岡市.
- 森貴教. 2013. 弥生時代北部九州における片刃石斧の生産・流通とその背景—「層灰岩」製片刃石斧を中心に—. 古文化談叢 69: 95-116.
- 渋谷綾子. 2014. 国立歴史民俗博物館総合展示第1室(原始・古代)の新構築事業—2012年度活動報告. 国立歴史民俗博物館研究報告 186: 277-293.
- 鈴木淑夫. 2005. 岩石学辞典. 877 pp. 朝倉書店, 東京.

渋谷綾子 (国立歴史民俗博物館研究部)

大塚宜明 (国立歴史民俗博物館研究部機関研究員)

(2014年4月18日受付, 2014年7月28日審査終了)



資料調査の様子



複製資料の作成 (型どり)



複製資料の作成 (彩色)



生体復元模型の製作打合せ (衣装)



生体復元模型の製作



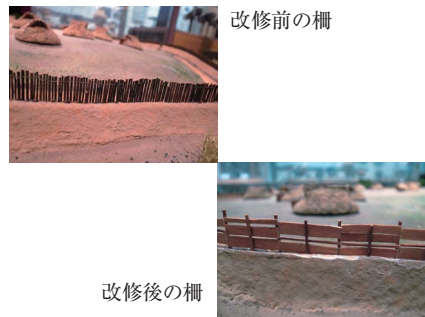
生体復元模型の衣装製作



横浜市大塚遺跡復元模型の改修



改修作業の様子



改修前の柵

改修後の柵



納品検査の様子 (1)

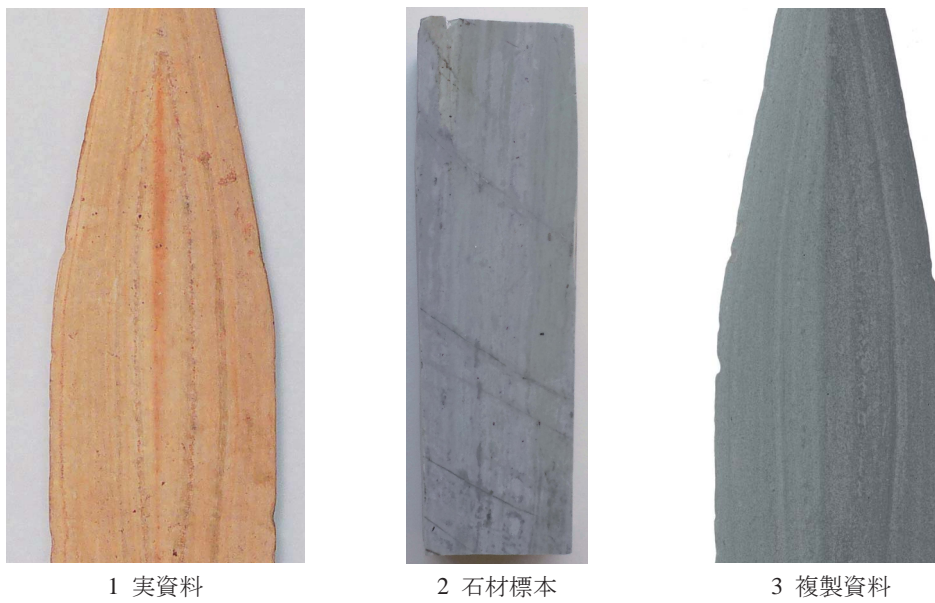


納品検査の様子 (2)



納品検査の様子 (3)

図3 資料調査, 複製資料や大型模型の製作・改修, 納品検査の様子



1 実資料

2 石材標本

3 複製資料

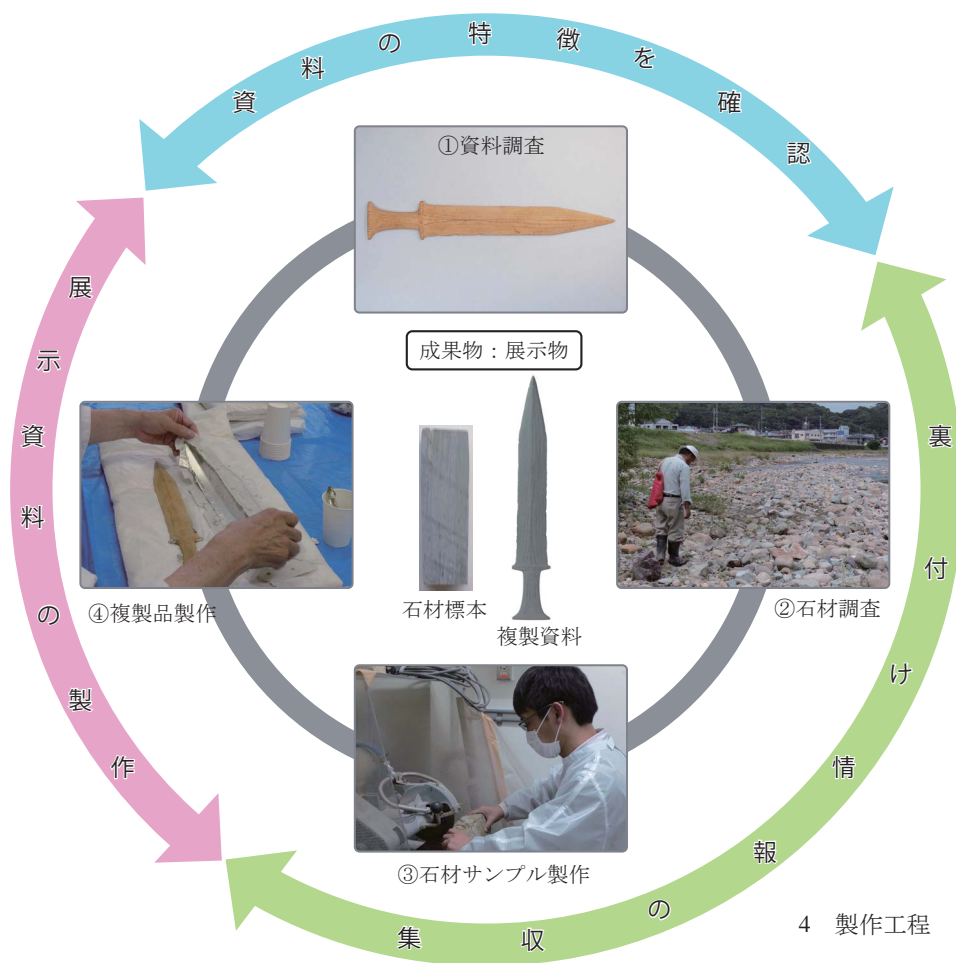


図4 実資料(1)・石材標本(2)・複製品(3)の拡大写真と複製資料の製作工程(4)